

## 東京の景況は、消費増税の反動減等により悪化したものの、先行きは改善を見込む

- 「業況DI」(前年同期比・全業種)は、▲6.8と悪化(前回調査比-3.3ポイント)したものの、来期の見通し(前年同期比・全業種)については、調査開始以来最高の水準となる▲1.7(今回調査比+5.1ポイント)と大きく改善を見込んでいる。業種別の「業況DI」(前年同期比)をみると、消費増税前の駆け込み需要の反動減、円安による仕入価格上昇や原材料価格上昇等により、製造業、卸売業、小売業、サービス業で悪化した。ただし建設業は、工事量の増加により、9.9(前回調査比+7.3ポイント)と改善した。
- 「売上DI」(前年同期比・全業種)は、▲4.1と悪化(前回調査比-5.1ポイント)したが、来期の見通し(前年同期比・全業種)は、2.4(今回調査比+6.5ポイント)と大きく改善を見込んでいる。業種別の「売上DI」(前年同期比)をみると、小売業は▲25.4(前回調査比-12.0ポイント)、卸売業は▲13.7(前回調査比-17.5ポイント)と大幅に悪化した。一方、建設業とサービス業は改善し、それぞれ11.7(前回調査比+3.0ポイント)、▲0.3(前回調査比+0.5ポイント)となった。
- 「採算DI」(今期水準、「黒字」と回答した企業-「赤字」と回答した企業の割合)は、卸売業が20.8(前回調査比+4.5ポイント)、サービス業が20.4(前回調査比+4.8ポイント)となり、全業種では、15.5とわずかながら改善(前回調査比+0.9ポイント)した。
- 「資金繰りDI」(前年同期比・全業種)は、▲5.3(前回調査比+2.5ポイント)となった。「民間金融機関の貸出姿勢DI」(前年同期比・全業種)は、1.2(前回調査比±0.0ポイント)、今期水準は、0.3(前回調査比-0.8ポイント)とプラスを維持した。

### 【調査要領】

○調査期間：平成26年5月22日～6月1日

○調査対象：東京23区内の中小企業2,460社

○調査項目：業況、売上、採算(経常利益)、資金繰り、民間金融機関の貸出姿勢

○調査方法：FAXおよび経営指導員による聴き取り

○回答数：964社(回答率39.2%)

＜業種構成＞・製造業237社(24.6%)・建設業111社(11.5%)・卸売業154社(16.0%)・小売業118社(12.2%)・サービス業344社(35.7%)

※ 本集計結果におけるDI値とは、「好転」「良い」「増加」「好調」「黒字」「緩和」「緩い」と回答した企業-「悪化」「悪い」「減少」「不調」「赤字」「厳しい」と回答した企業の割合。

※ 全ての質問について、割合は四捨五入を行っているため、必ずしも合計が100.0%にならない。

※ 本調査結果の集計にあたっては、独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施している「中小企業景況調査」の調査結果を一部活用している。

# 1. 業況

○「業況DI」（前年同期比・全業種）は、▲6.8と悪化（前回調査比-3.3ポイント）したものの、前回調査時の見通しと比べて悪化幅は小幅にとどまり（▲10.8→▲6.8）、来期の見通し（前年同期比・全業種）については、調査開始以来最高の水準となる▲1.7（今回調査比+5.1ポイント）と大きく改善を見込んでいる。業種別の「業況DI」（前年同期比）をみると、消費増税前の駆け込み需要の反動減、円安による仕入価格上昇や原材料価格上昇等により、製造業、卸売業、小売業、サービス業で悪化した。ただし建設業は、工事量の増加により、9.9（前回調査比+7.3ポイント）と改善した。

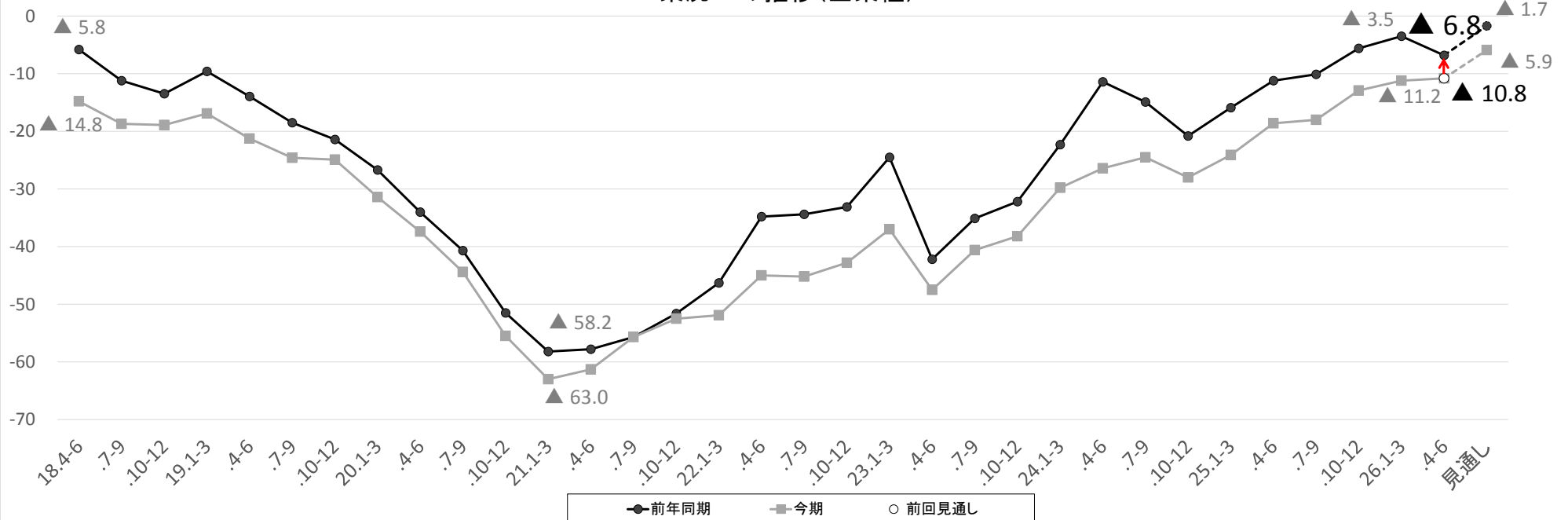
【企業の声】消費増税の駆け込み需要の反動減により、訪問顧客数が減少。（小売業：家電製品）

消費税の反動で荷動きが悪い。受注減により採算が悪化しているが、7~9月期は期待感を持っている。（卸売業：鉄鋼製品）

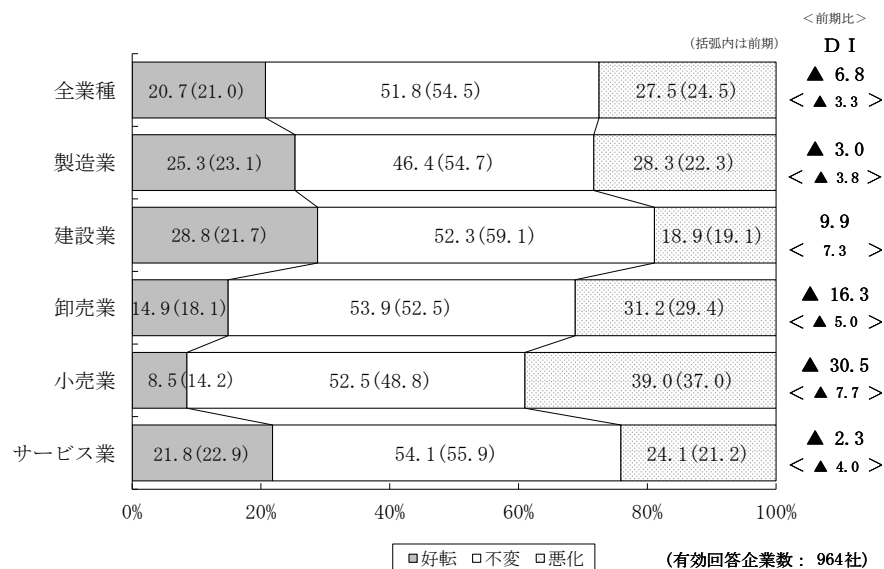
販売価格下落と円安による原材料単価上昇を価格転嫁できず、売上・利益減少。大手メーカー参入による競争激化。（製造業：菓子製造）

人手不足により受注は厳しいが、住宅新築工事やオフィスの改修等、仕事は多くある。（建設業：総合建設業）

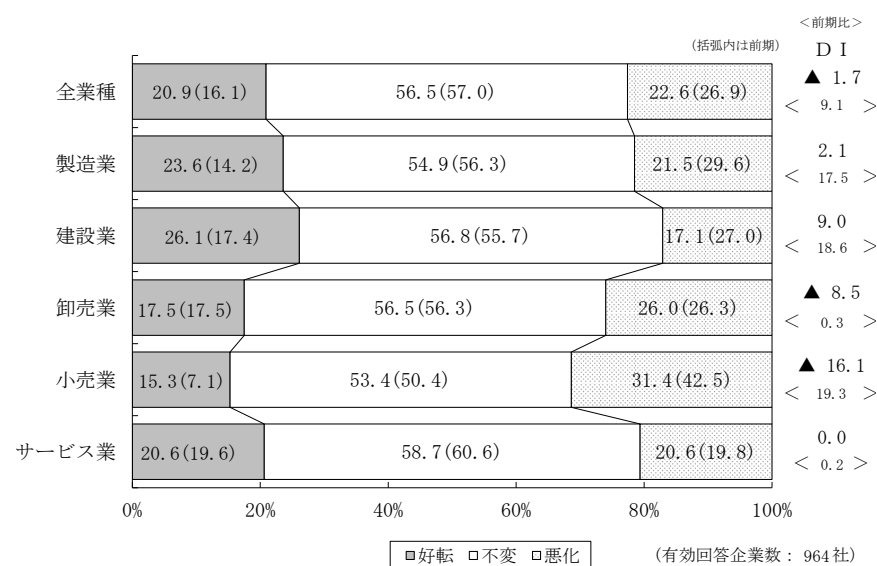
業況DIの推移(全業種)



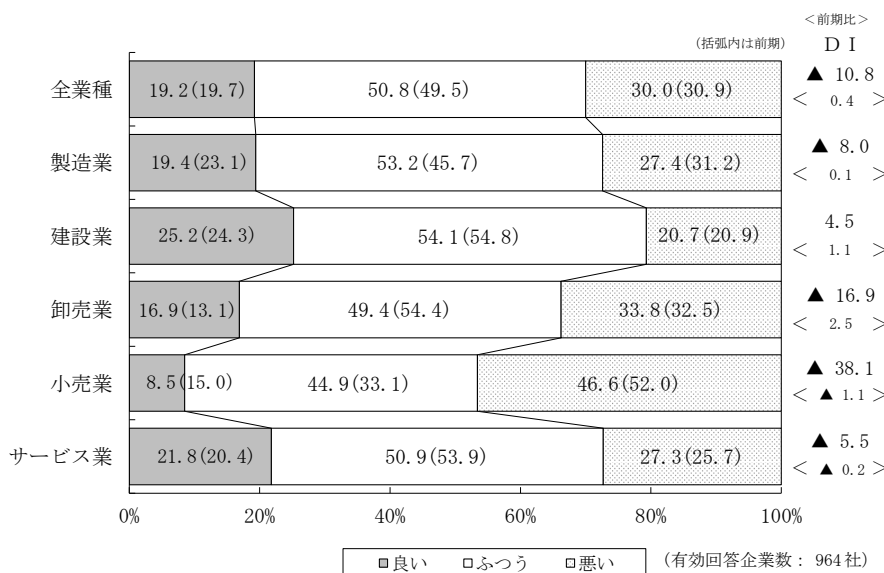
### ① 今期の業況（前年同期比）



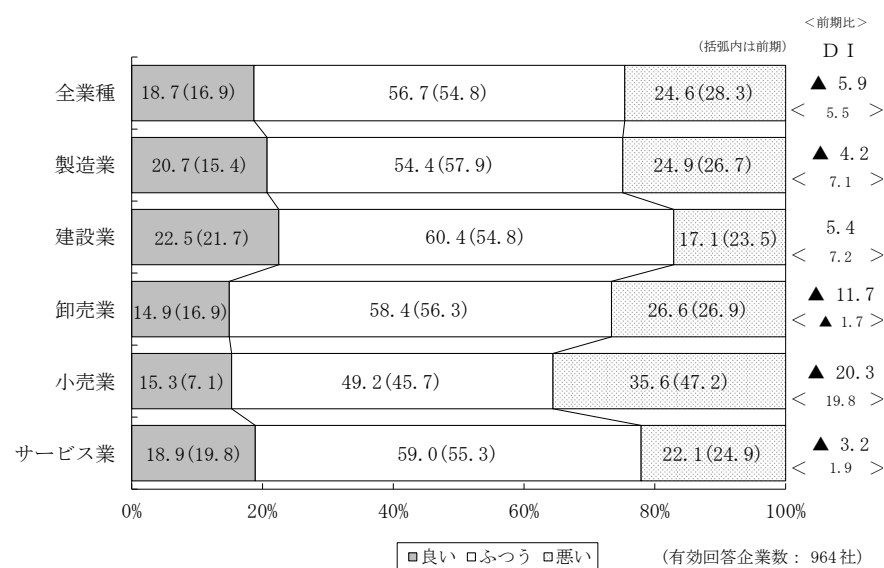
### ② 来期の業況の見通し（前年同期比）



### ③ 今期の業況（水準）



### ④ 来期の業況の見通し（水準）



## 2. 売上

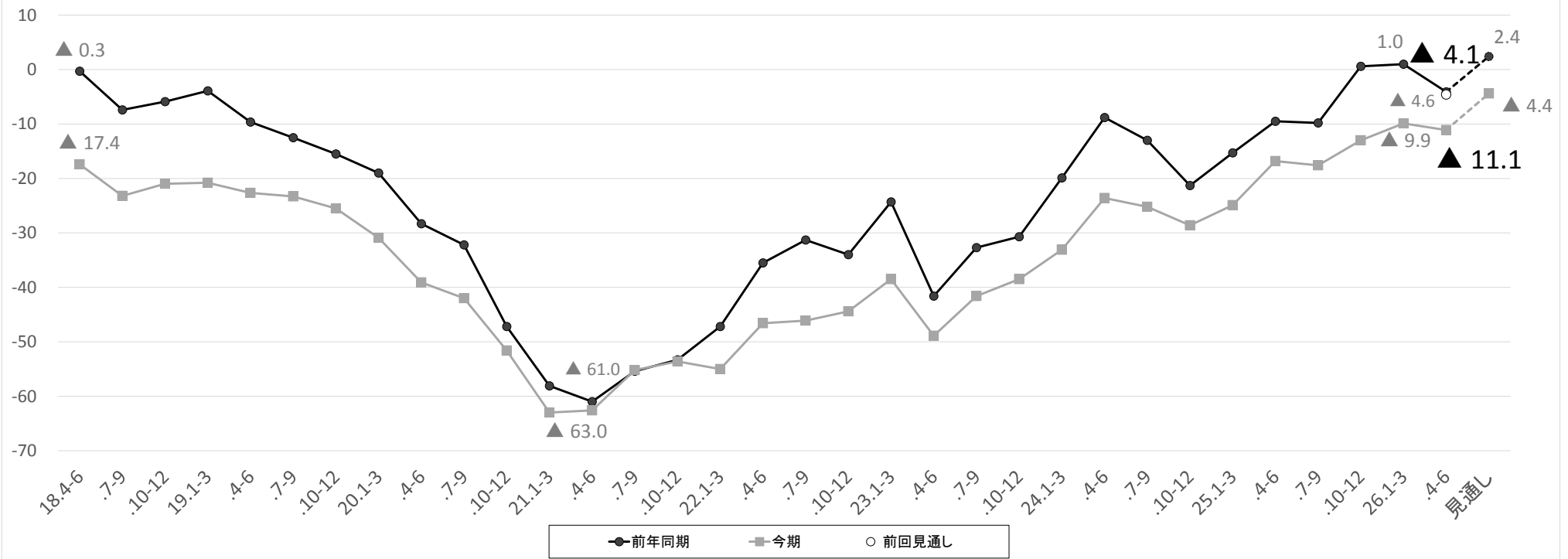
○「売上DI」（前年同期比・全業種）は、▲4.1と悪化（前回調査比-5.1ポイント）したが、来期の見通し（前年同期比・全業種）は、2.4（今回調査比+6.5ポイント）と大きく改善を見込んでいる。業種別の「売上DI」（前年同期比）をみると、小売業は▲25.4（前回調査比-12.0ポイント）、卸売業は▲13.7（前回調査比-17.5ポイント）と大幅に悪化した。一方、建設業とサービス業は改善し、それぞれ11.7（前回調査比+3.0ポイント）、▲0.3（前回調査比+0.5ポイント）となった。

【企業の声】増税により売上減少。ガソリン価格が高いままであることも影響している。（小売業：ガソリン・軽油・灯油）

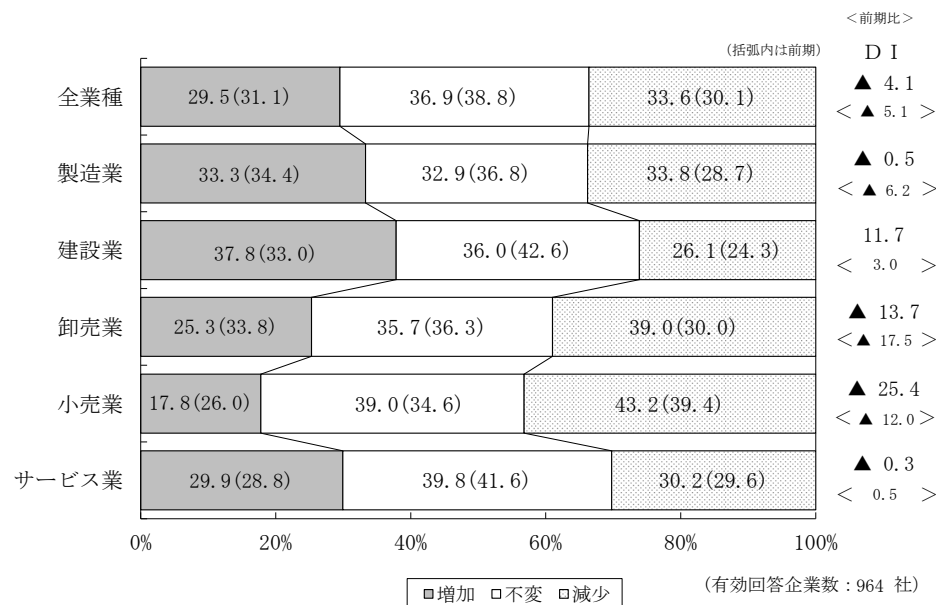
飲食業の新規出店が減っているため、特注品の引き合いが少なく売上が伸びない。（卸売業：テーブルウェア、卓上小物）

国内のお客様の数は不変だが、海外からの観光客が増加している。（サービス業：屋形船）

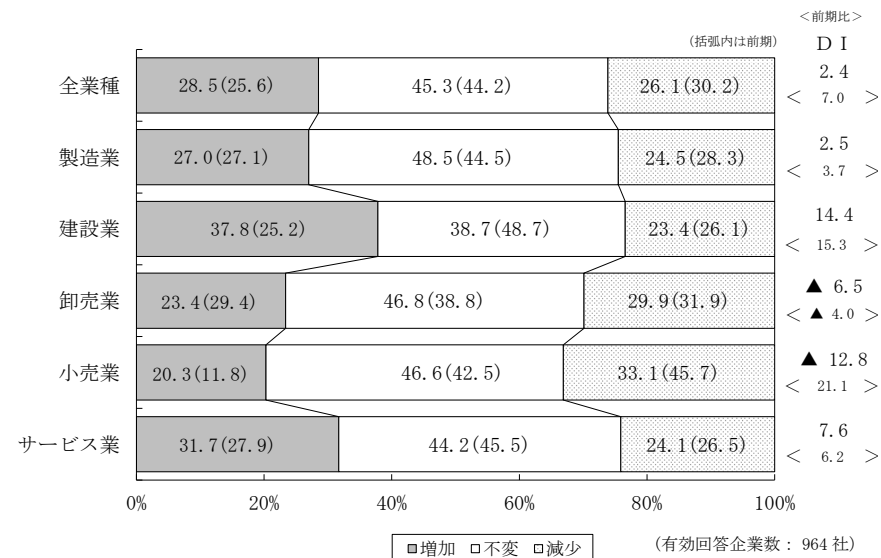
売上DIの推移(全業種)



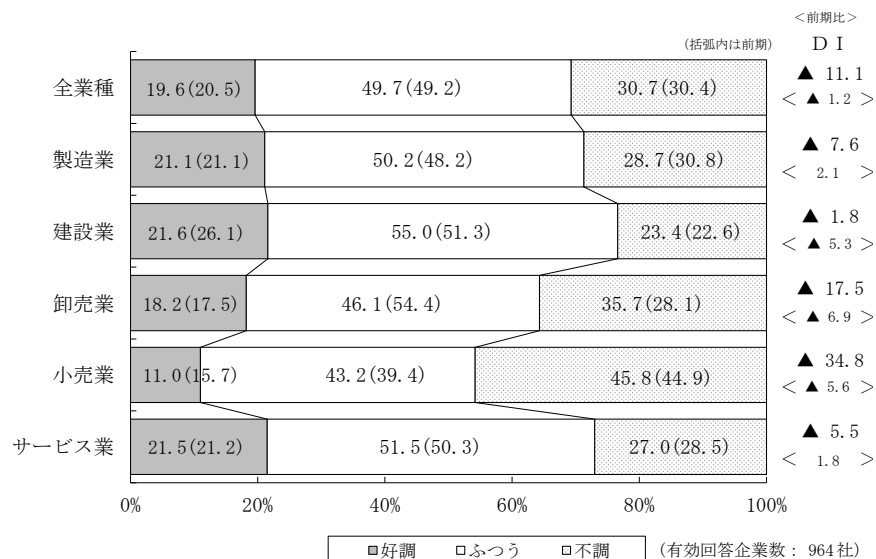
### ①今期の売上（前年同期比）



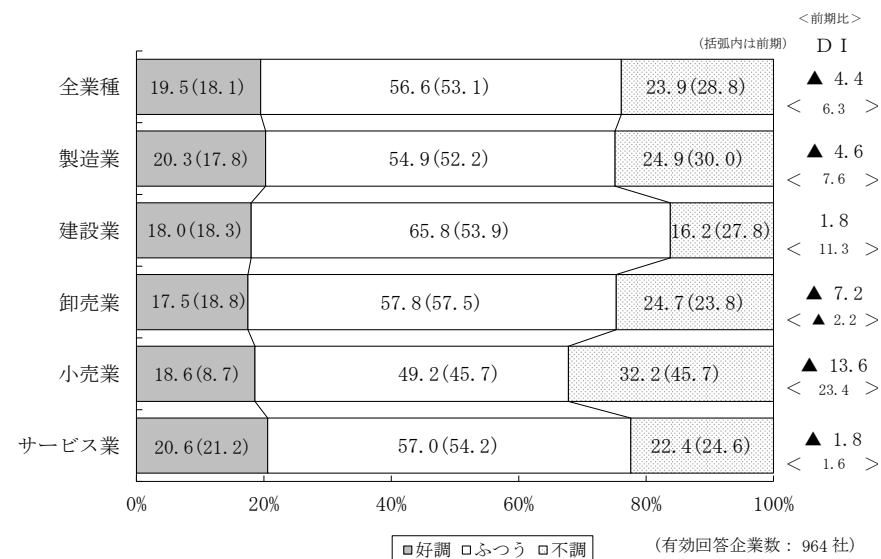
### ②来期の売上の見通し（前年同期比）



### ③今期の売上（水準）



### ④来期の売上の見通し（水準）



### 3. 採算（経常利益）

○「採算DI」（今期水準、「黒字」と回答した企業－「赤字」と回答した企業の割合）は、卸売業が20.8（前回調査比＋4.5ポイント）、サービス業が20.4（前回調査比＋4.8ポイント）となり、全業種では、15.5とわずかながら改善（前回調査比＋0.9ポイント）した。卸売業では、円安により採算が好転した企業や仕入価格上昇分の価格転嫁ができた企業が多く、また、サービス業では、不動産取引の活性化や運送業の荷動きが活発化したことにより改善した。

【企業の声】新規顧客獲得と、温度を一定に保つ特殊貨物の運送増加により、利益率が伸びた。（サービス業：運輸）

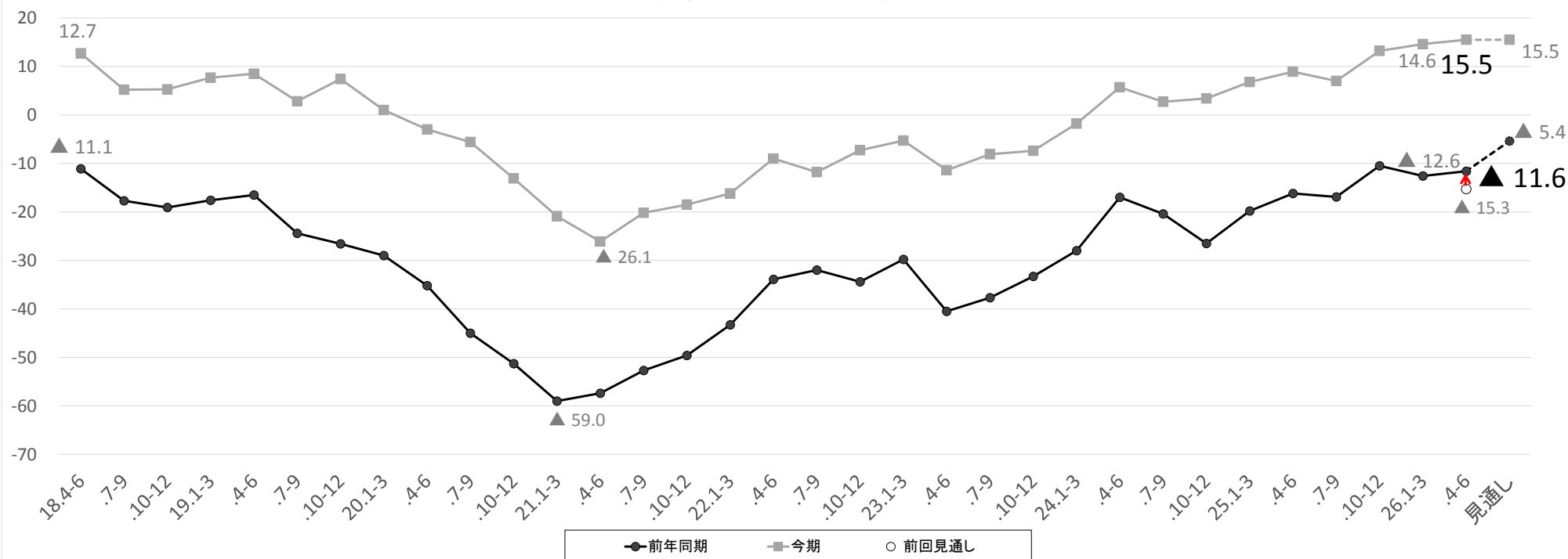
商品個別の価格は上昇しており、数量が増えない。単価の安い商品は売れないが、高付加価値製品の売行きが好調であり利益率は良い。  
（卸売業：携帯電話ストラップ・カバー）

オリジナル商品の開発を強化した結果、売上は減少したが、増益になった。（卸売業：メンズ・レディース・子ども靴）

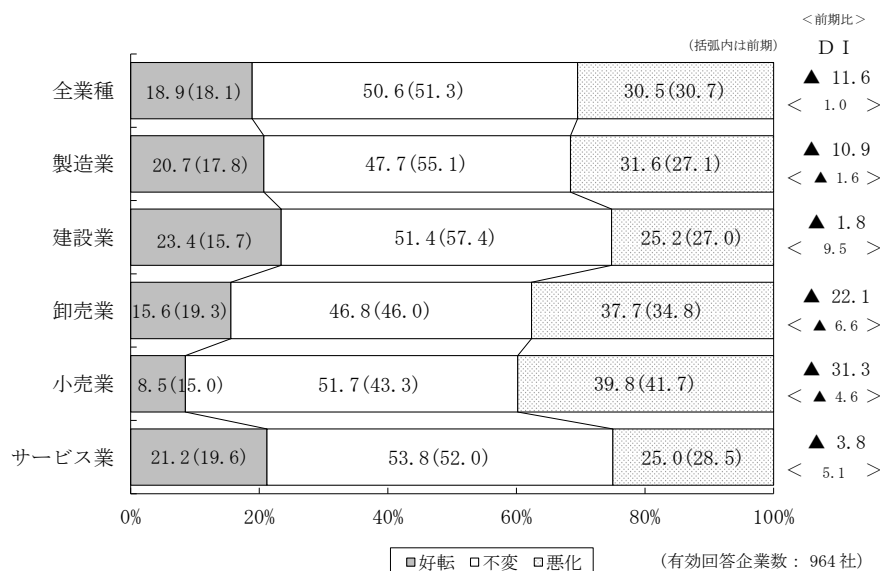
4月の消費増税以来、客数が減少。その結果、売上が減少し採算悪化。来期もこのような状態が続くのではと不安。（小売業：自転車）

仕事の受注や依頼は多くなっているが、材料不足、人手不足によるコスト高で採算は悪化。（建設業：一般土木建築工事業）

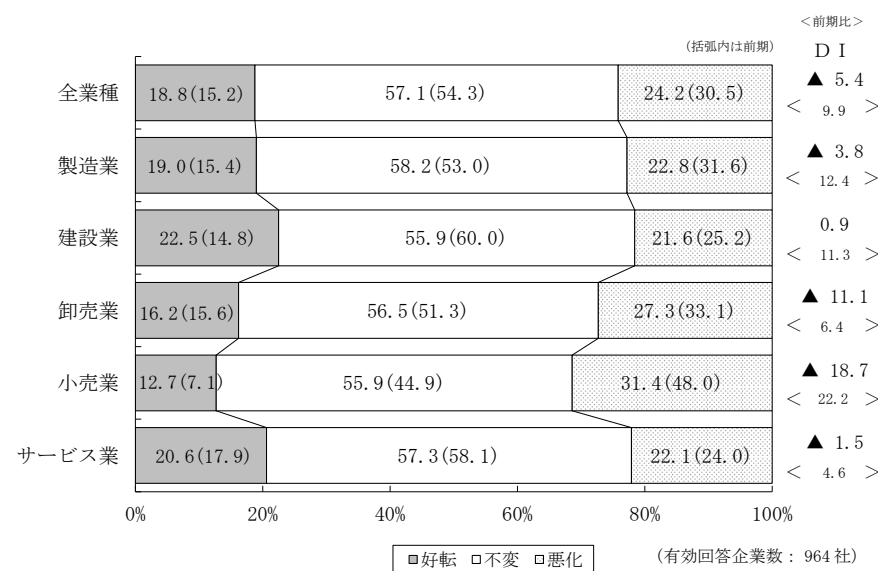
採算DIの推移（全業種）



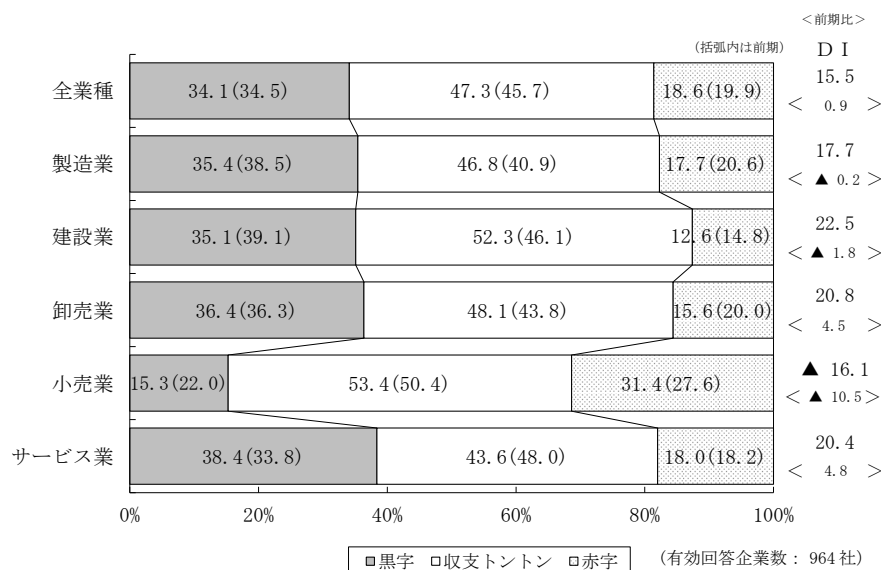
### ①今期の採算（前年同期比）



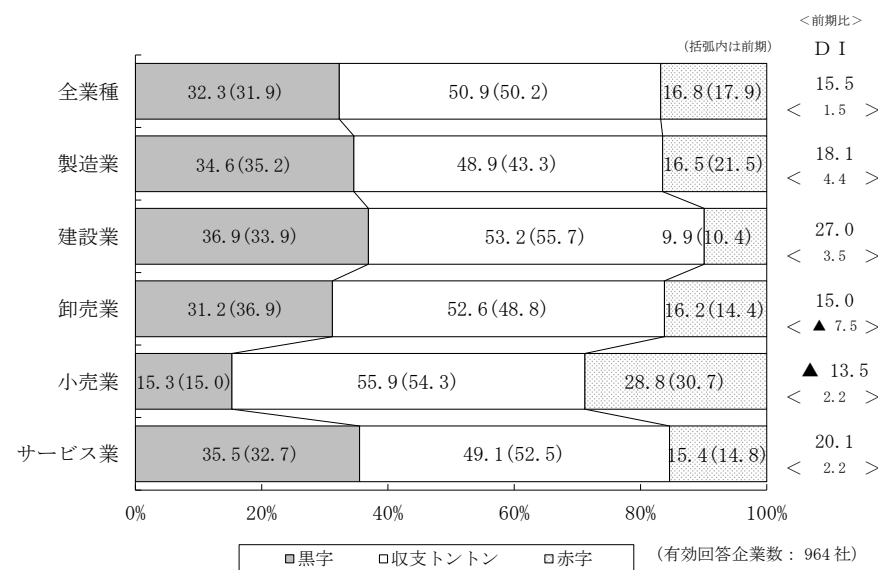
### ②来期の採算の見通し（前年同期比）



### ③今期の採算（水準）



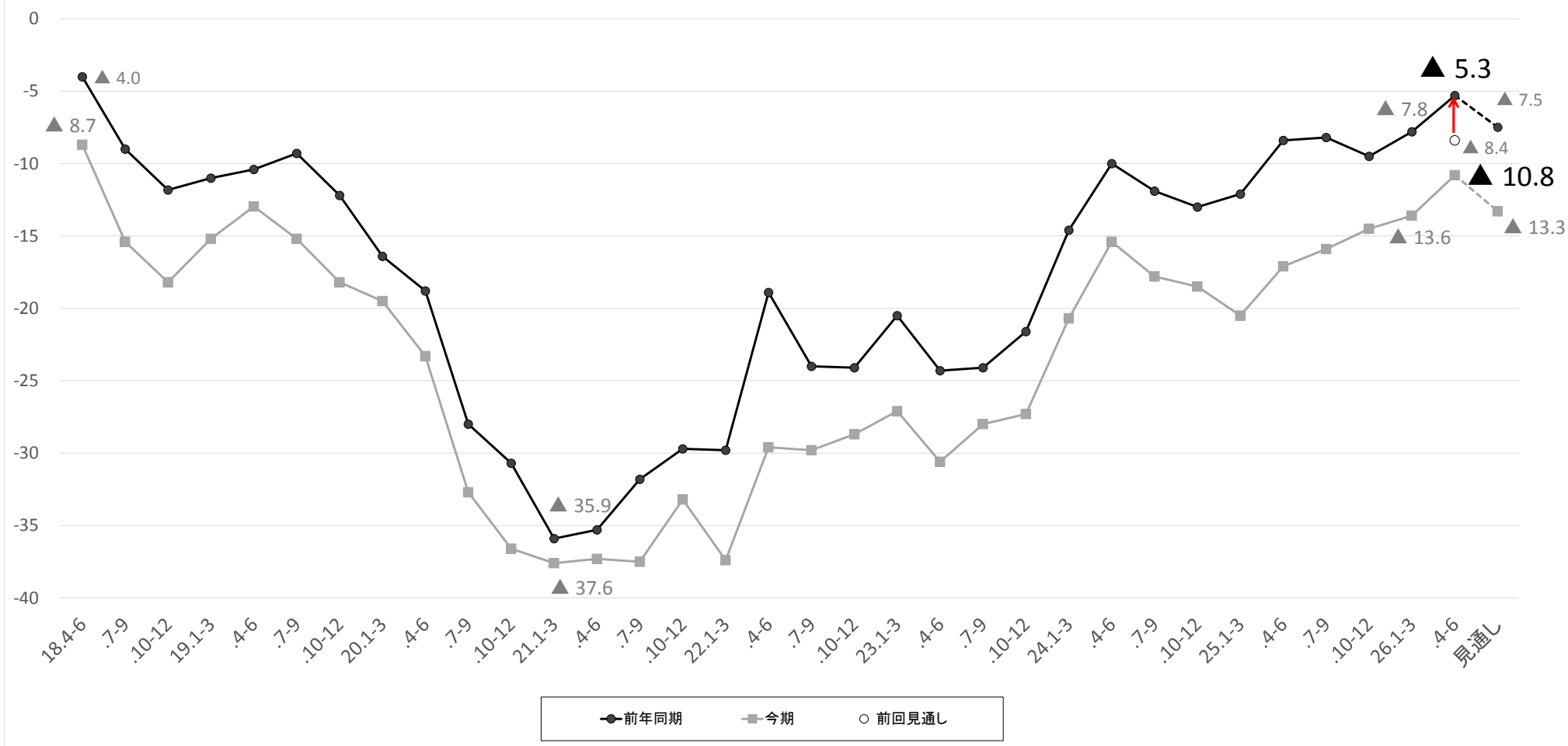
### ④来期の採算の見通し（水準）



## 4. 資金繰り

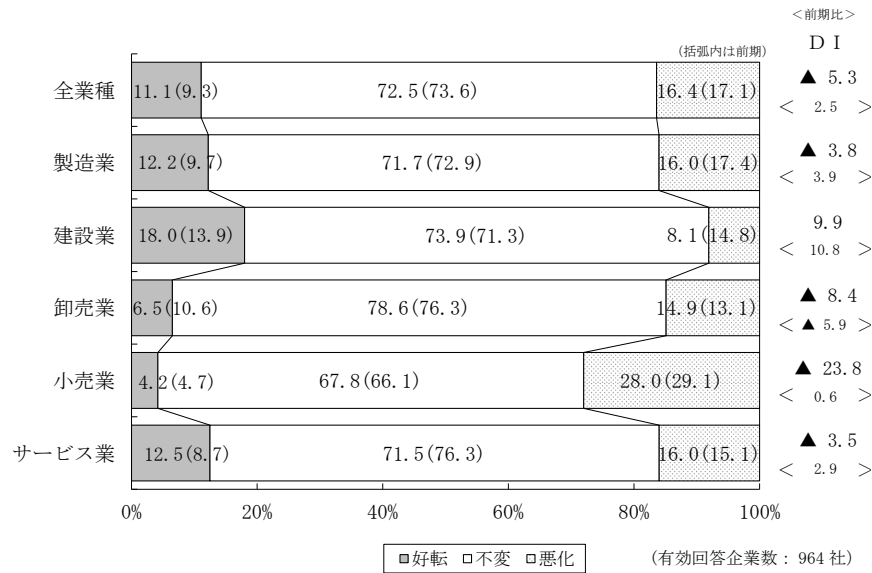
○「資金繰りDI」(前年同期比・全業種)は、▲5.3(前回調査比+2.5ポイント)となった。

資金繰りDIの推移(全業種)

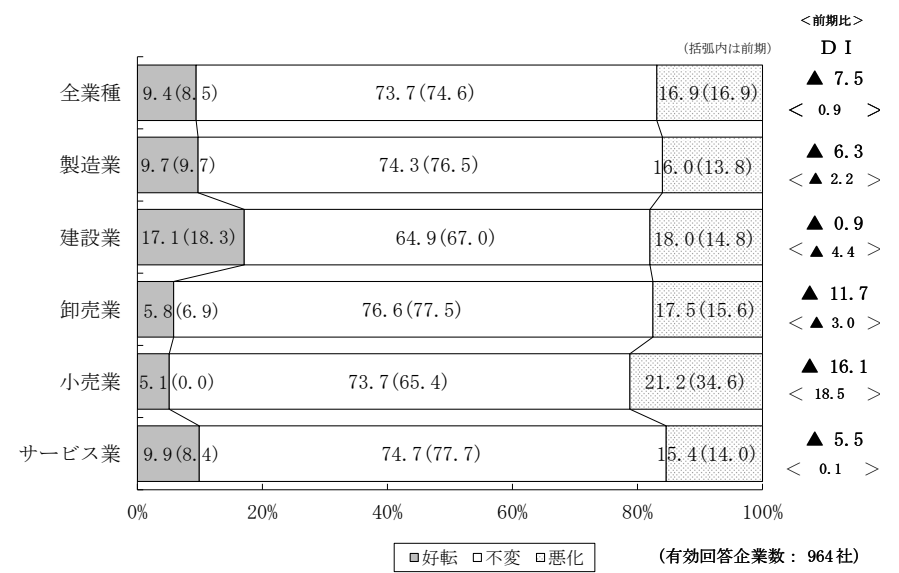




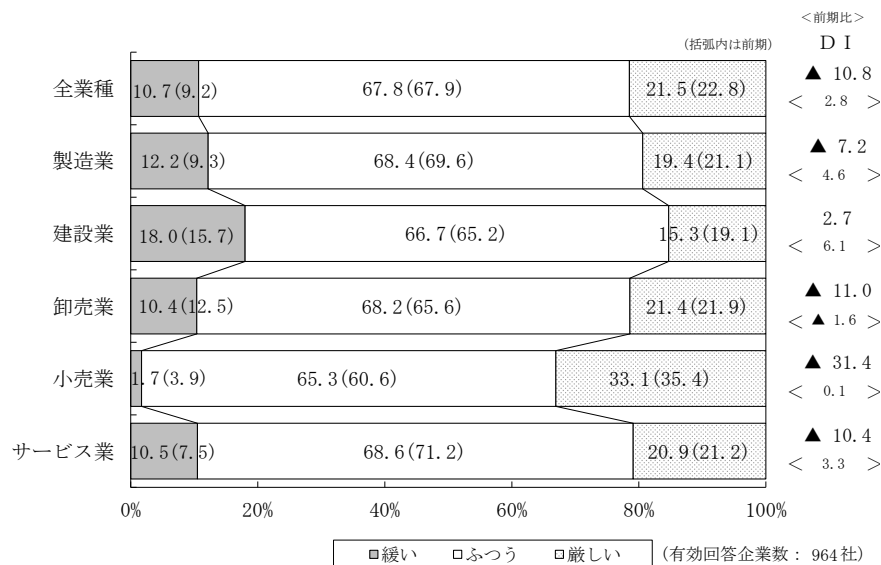
### ①今期の資金繰り（前年同期比）



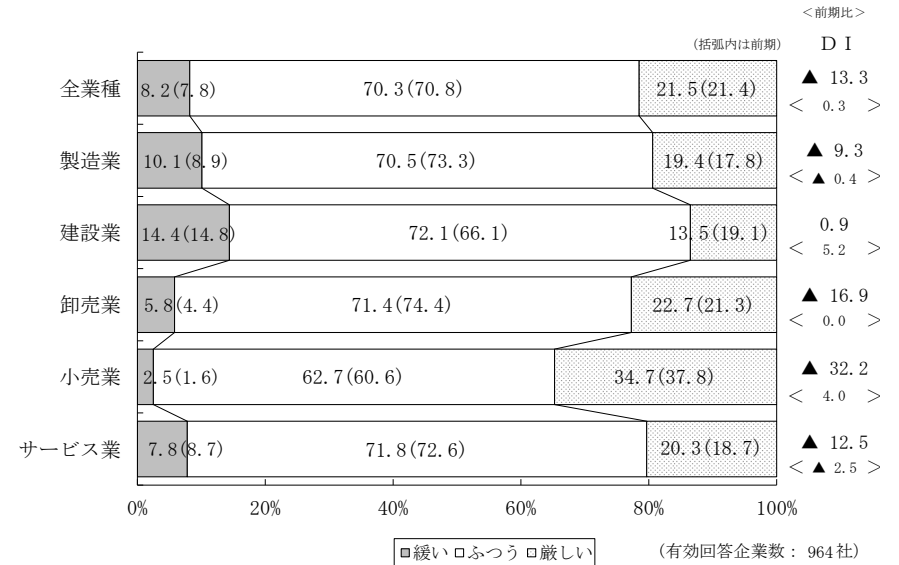
### ②来期の資金繰りの見通し（前年同期比）



### ③今期の資金繰り（水準）



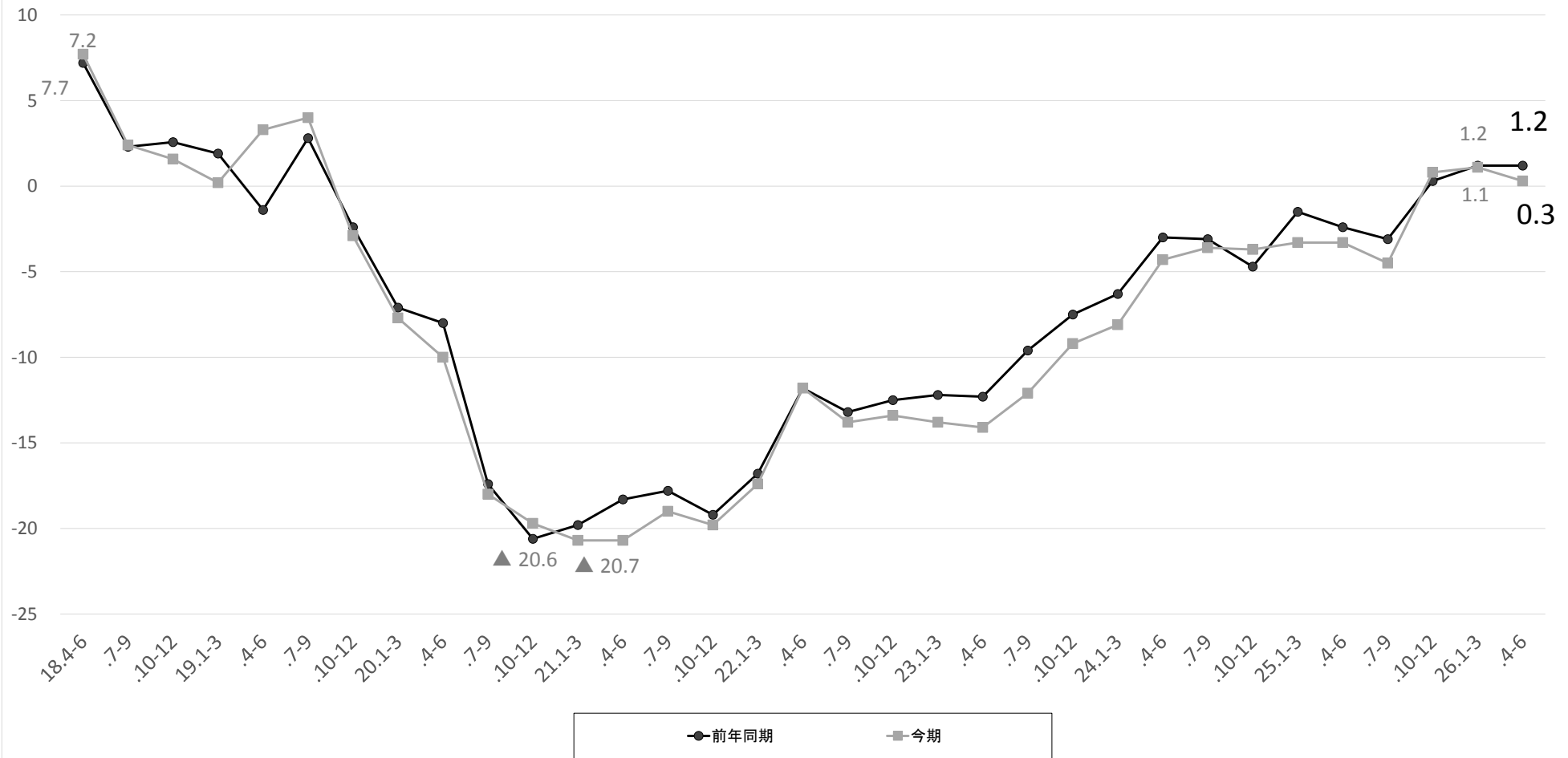
### ④来期の資金繰りの見通し（水準）



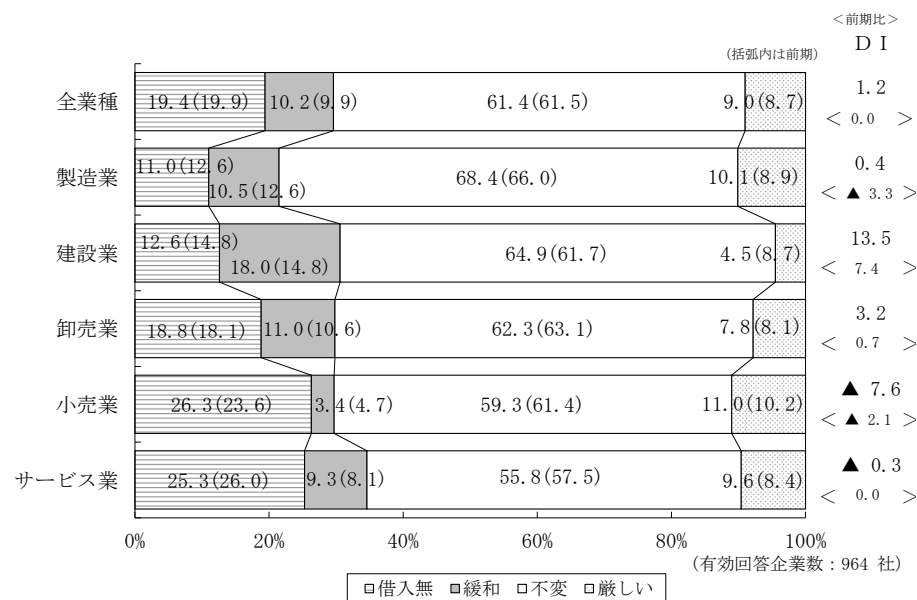
## 5. 民間金融機関の貸出姿勢

○「民間金融機関の貸出姿勢DI」（前年同期比・全業種）は、1.2（前回調査比±0.0ポイント）、今期水準は、0.3（前回調査比-0.8ポイント）とプラスを維持した。

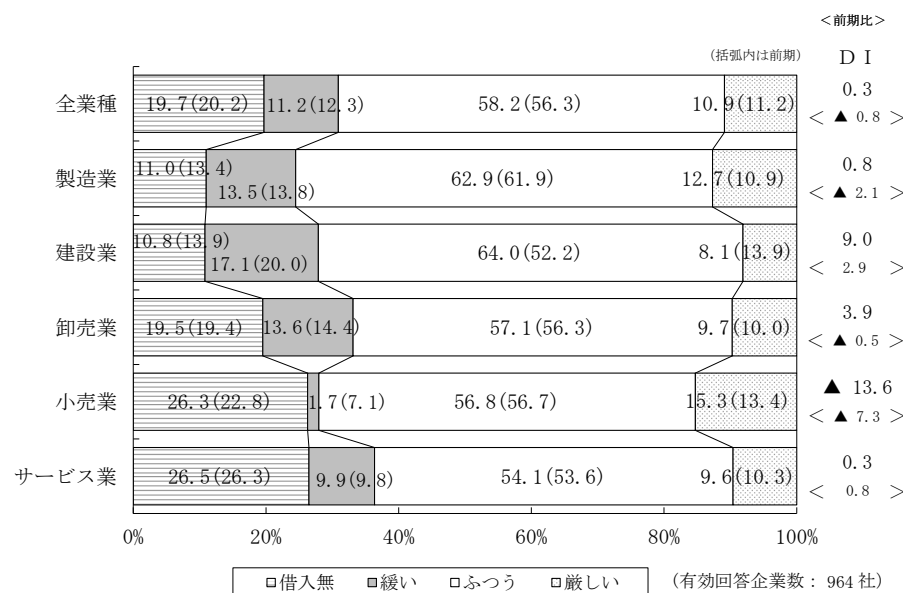
貸出姿勢DIの推移（全業種）



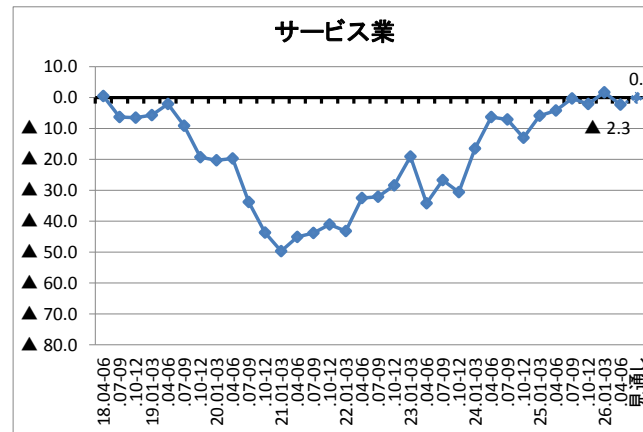
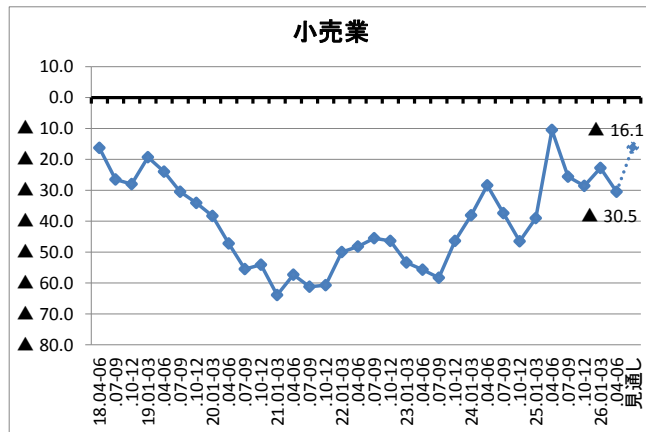
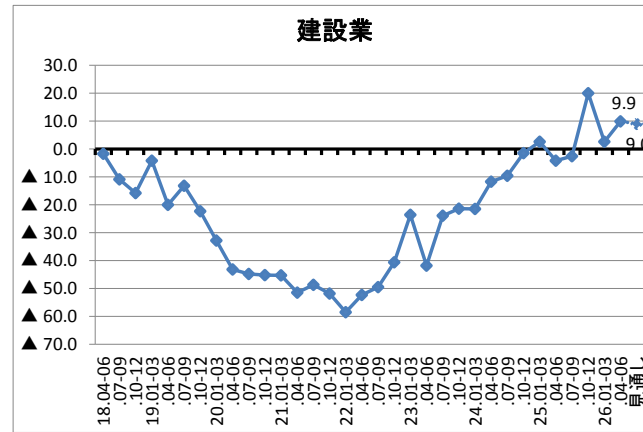
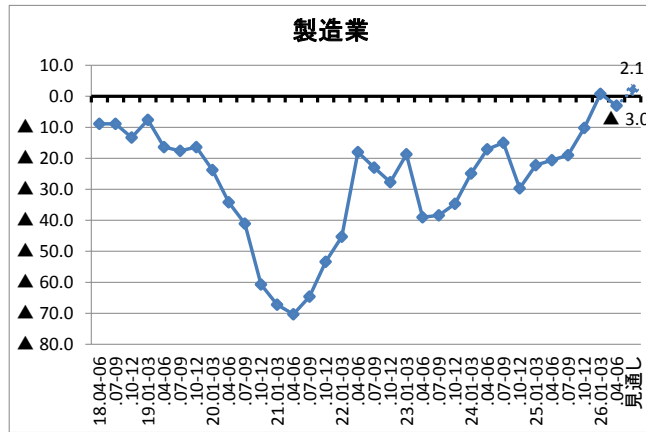
## ①民間金融機関の貸出姿勢（前年同期比）



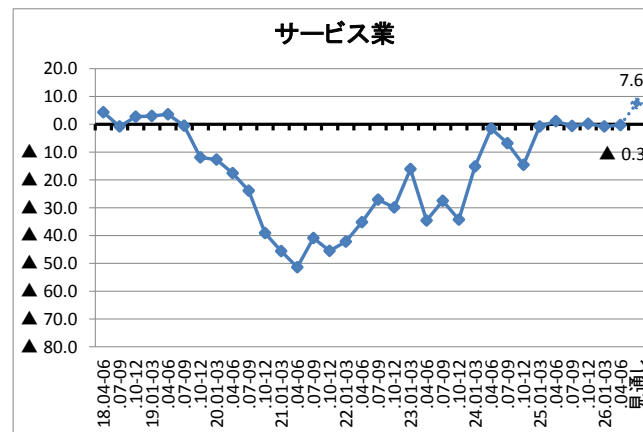
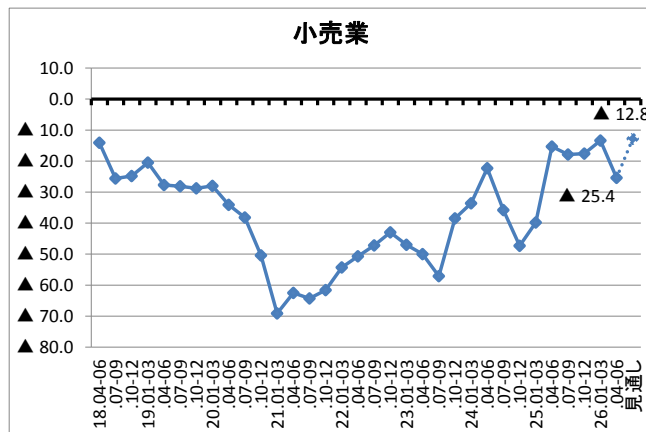
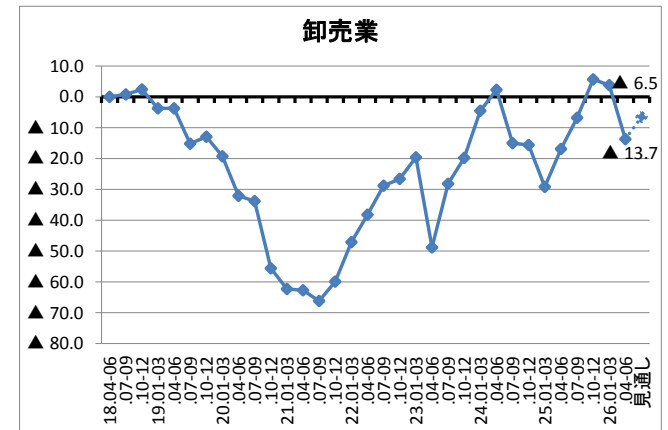
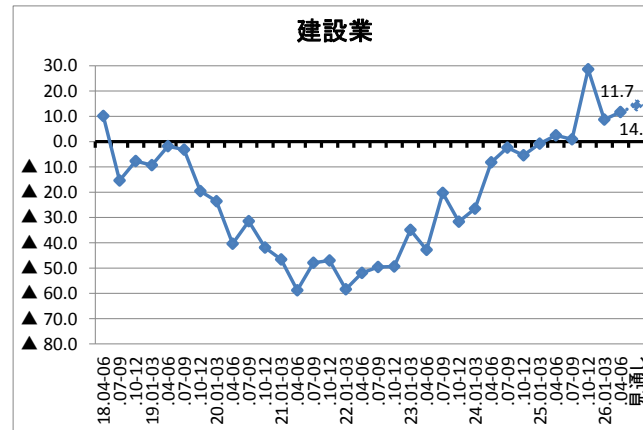
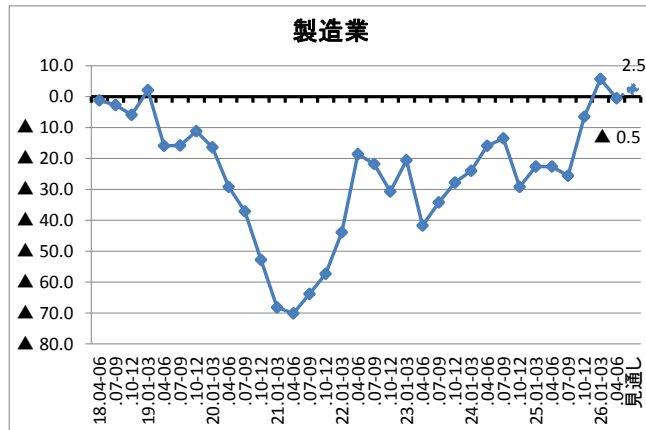
## ②民間金融機関の貸出姿勢（今期水準）



# 参考1 <業況DI 業種別・前年同期比>



## 参考2 <売上DI 業種別・前年同期比>



### 参考3 <採算D I 業種別・今期水準>

